

榮誼と云う者、当寺の住職善秀和尚と謀り、壇中の褒善家宇兵衛、利兵衛、与惣兵衛、彦左衛門等と協力し、村呂乃志を一にして安永九庚午御堂の再建を泉現寺境内に經營し、地蔵菩薩乃御尊体を茲に移し奉る。今の御堂は即ち是なり。泉現寺の大門や、屏牆も此時同時に建設したるものにして誠可謂靈場矣。

右は古文書や俚俗の伝承を探りて掲記したる事なれば、或は彼は抵牾するものなりと雖も弁を訂正せば却て其の実を失ふ嫌なき能ざるを以て、其の伝ふる儘書き記したる事爾云。

大正五年辰年七月宇羅盆会に際して之を撰す。

撰者 小池筑後守添貞道拾八代之主 小池徳美
筆者 撰者之二弟河沼郡千咲之住人 同 道康

二四、下野村、附上荒井村

1、上荒井と下野の熊野永山福寺 旧鶴沼川扇状地の最も左端にあつて、むしろ村は濁川の扇状地との裾合いといったほうがよいか知れない。古くは一面雜木林に蔽われてあつたかとも思う。その名残りもいくらかあつたが、今度の構造改善によつて、見事な広土が拡がり、道路もつけかえられ面目を一新している。

この地方の中心地は上荒井村であつて、ここには上荒井の富田氏の城廓にいた規模の本丸、二の丸、三の丸をもつ城廓があつて、天正の頃（一五七三～一五九一）葦名の臣荒井萬五郎某が住んでいたと伝える。その土堤・堀跡が残つております、旧肝煎の梅宮宅は空屋敷になつたが、ほぼ三反三畝歩ほどの屋敷が堀と土堤の形に囲まれてゐる。その前の梅宮宅は分家で、その一は現在も神官をつづけている。その西にある旧廓内の渡辺宅は人が入れ変つてゐるが、もとは二反四畝歩もあつた屋敷である。さらにその西に天台宗真福寺が土堤と堀に囲まれて約一